

総務企画防災常任委員会行政視察報告書

杉 田 光

○愛知県岡崎市

・平成20年8月末豪雨災害後の防災対策の取り組みについて

【所 見】

平成30年第3回市議会定例会において、足利市議会災害時BCP（業務継続計画）が策定され、防災・減災への市民意識は高まってきている。さらに、昨今の報道を見ても自然災害の恐ろしさは対岸の火事ではなく、緊張感が増すばかりである。それらを踏まえ、平成20年8月末豪雨災害で被災し、その後先進的な防災対策に取り組まれている愛知県岡崎市を視察してきた。岡崎市職員に災害時の状況を聞くと、豪雨は想定外の降雨量であり、情報の連携においても混乱状態であったとのことである。さらに、大河川に異常はなく、中小河川が氾濫したために内水氾濫への対応が困難になってしまったとのことである。災害時における行政としての対応には限界があり、危機的状況においては、各市民の判断と行動が重要であると強く感じた。同時に、災害を現実的に想定した警戒準備が大変重要なことである。特に感心した岡崎市の取り組みとして、地域に根差したハザードマップの策定がある。全市的な防災マップとともに各町内単位のハザードマップが策定されており、避難経路・各ポイントの被害想定が記載されている点は本市も見習うべき点である。策定するに当たり、各町内役員・住民と議論して研究する作業は大変時間と労力がかかる取り組みではあるが、本市でもきめ細やかに取り組むべき課題である。

・斎場整備事業について

【所 見】

「斎場整備事業」は本市にとって鬼気迫る重要な課題である。本市斎場は老朽化が進み、建てかえには莫大な費用がかかると想定されている。そこで、民間力を活用するPFI等の手法も含めて議論が進められている状況である。それらを踏まえ、先進的な取り組みをされている岡崎市斎場を視察してきた。岡崎市は同市の経営会議において、PFI方式を含む民間事業方式を広く検討する方針を打ち出し、それを踏まえて民間活力導入可能性調査を実施し、PFI方式導入が妥当であると決定したようである。進める上で施工の直接発注者がSPC（PFI事業の特別目的会社）になることから、施設の整備に関して市の意見が通しに

くいなどの懸念もあったが、供用開始後、特段問題もなく市民からの苦情もないようである。その部分でPFI導入の成功例と言えるが、岡崎市と比べ人口規模や経済状況等が異なる足利市としては、十分な議論を重ねてさまざまなリスク等を想定しながら、PFI導入に向けての研究を進めなければならないと認識した。

○神奈川県秦野市

災害時等行動マニュアル策定の経緯と対策訓練の実施及び検証について

【所見】

前段でも触れたとおり、足利市においても平成30年第3回市議会定例会で足利市議会災害時BCP（業務継続計画）が策定されたところであり、災害時の議会としての行動マニュアルについて注目されてきている。それを踏まえ、先進都市であり対策訓練も行った神奈川県秦野市を視察してきた。災害時の議会としての行動マニュアルについては、両市で共通点が多く、大変意義のある情報交換ができた。議員共通の作業用ジャンパーをつくり、意識の向上を図っているところはユニークな取り組みである。平成29年8月に秦野市議会は訓練を行っているが、本市も訓練を行うべきである。秦野市も、訓練を行ったことで情報連絡における改善点を見出すことができたようである。足利市としても現在の議会BCPに固執することなく、時代や世情に合わせて訓練・検証・改善を繰り返していかなければならないと強く感じた。